

説 教

聖日礼拝 北浜チャーチ
黒田 禎一郎

2020年11月1日（日）

主 題：「仕返しの渦にはまらないように」

—祝福を受け継ぐために—

テキスト：1ペテロの手紙3章8—12節

はじめに

- ・この世の中では、理由なくして受ける苦しみというものがあります。皆さんも、きっと一度や二度、誤解されて苦しい経験をされたことがあるのではないのでしょうか。誤解された状態で、それを正そうとすると、ますます関係が悪化してしまうことがあります。ですから、ジレンマに陥り、ストレスも積もり、イライラして精神的に不健康な状態となります。そのような時、あなたはどんな「ストレス解消法」を持っておられるのでしょうか。
- ・今の時代は、ストレスフルの時代となりました。先日、私は米子キリスト教会へ行きましたが、鳥取県は「ストレスオフ県」として第1位に選ばれました。鳥取県が第1位に選ばれたのは3回目で、5年連続でトップ10に入っています。鳥取県には恵まれた山と海があり、自然が豊かでじつに環境に恵まれた地であります。そこで、
「ストレスオフ」の生活を過ごしたいという移住者が増えているそうです。
- ・人は多かれ少なかれ、何らかのストレスをかかえて歩んでいます。ストレスが自分の許容量を越えるならば負荷となります。それが続くならば、精神的に疲労してしまいます。早いうちに「ストレスオフ」の状態に入らなければ、病んでしまうこととなりますから注意が必要です。
- ・ところで、ペテロは当時のユダヤ人クリスチャンたちが、世の中で寄留者、旅人として生きる中で、理不尽な苦しみがあると述べました。それはかなりの負荷を与えたものでした。たとえば、次のようです。
- ・1:6 今しばらくの間、様々な試練の中で悲しまなければならぬ
- 2:12 悪人呼ばわり
- 2:18 意地悪な主人
- 2:19 不当な苦しみ



<後方が鳥取県大山>

2:20 善を行って苦しみを受け

- ・実は、このようなストレス過剰な問題が本格的に取り上げられるのは、今日の3章8節以降であります。ペテロはここで、大切2点を述べています。

大切なポイント

1. キリスト者の基本的姿勢

1) キリスト者の中で

3:8 最後に言います。みな、一つ思いになり、同情し合い、兄弟愛を示し、心の優しい人となり、謙虚でありなさい。

- ・ペテロは先ず、この世で困難に会いながら生きるキリスト者の基本的姿勢を語りました。不当な苦しみにあいながら、どのような姿勢で生きるか、キリスト者の歩みが5つの形容詞で表現されています。

① 「一つ思いになり」

イエスはヨハネ福音書17章でこう言われました。

17:22 私たちが一つであるように、彼らも一つになるためです。

これは、イエスが弟子たちのために祈られた最後の祈りです。それだけ私やちは、「一つ思いになること」、「一つになること」は難しいことです。しかし、だからこそ神の助けがあるように祈られたのです。

② 「同情し合い」

苦しんでいる人の思いやる心です。苦しみを持つ方に寄り添うことです。

③ 「兄弟愛を示し」

1 ヨハネの手紙

3:14 私たちは、自分が死からいのちに移ったことを知っているからです。兄弟を愛しているからです。愛さない者は死のうちにとどまっています。

主にある兄弟姉妹を愛することは、私たちが救われている証拠なのです。

④ 「心の優しい人となり」

この箇所は、「あわれみ深く」とも訳されています。これもキリスト者としてふさわしい姿勢であります。

⑤ 「謙虚でありなさい」

決して、ずうずうしくあつてはいけません。この姿勢もキリスト者として、ふさわしい姿勢です。これら5点をみますと、結局のところ「愛」、「あわれみ」、「同情心」をもつキリスト者は、「心優しく」、「謙虚である」という姿勢となるのです。

- ・ここで見落としてはいけない言葉があります。それは「みな」ということ言葉です。決して教会のリーダーだけではありません。教会の執事だけでもありません。「みな」です。ペテロは語りました。

3:8 みな、一つ思いになり、同情し合い、兄弟愛を示し、心の優しい人となり、謙虚でありなさい。

- しかしこのような姿勢は、生来の私にはできません。ただ聖霊がキリスト者となった私たちの心を変えてくださるときに、可能となるのです。そして謙虚になり、他の人に対する思いやりや、愛が生まれ、一緒に奉仕をする兄弟姉妹の間に一致が生まれるのです。これはやさしいことではありませんが、キリスト者の間で大切な姿勢です。
- しかし、キリスト者以外で自分に対して悪を行う人はどうでしょうか。

2) 自分に悪を行う人に対して

3:9 悪に対して悪を返さず、侮辱に対して侮辱を返さず、逆に祝福しなさい。

- これはもっと困難なことです。私たちの生来の性質、肉の性質は仕返しをします。重苦しい気持ちで、「ようし、いつか仕返しをしてやろう！」とチャンスをうかがいます。しかし、聖書は「**逆に祝福しなさい**」教えています。
- イエスは山上の垂訓で、「**自分の敵を愛し、自分を迫害する者のために祈りなさい。**」(マタイ 5:44) と教えられました。パウロも「**だれに対しても悪にかえさず、すべての人が良いと思うことを行いなさい。**」(ローマ 12:17)、また「**悪に負けてはいけません。むしろ、善をもって悪に打ち勝ちなさい。**」(ローマ 12:21) と述べました。
- 皆さん！ なぜ、このような高いハードルを設けるのでしょうか？ それは私たち自身が神の「**祝福を受け継ぐために召された**」からです。ですから仕返しの渦にはまってははいけません。仕返しは「報復の連鎖」をもたらします。相手に仕返しをして、すっきりするかもしれませんが、問題はもっと大きくなり、もっと苦しむことになります。
- 仕返しまでしなくても、もし相手を憎みつづけるならば問題解決にはなりません。自分の心はすさみ、平安を失うことでしょう。憎む思いは自分を不幸にしてしまいます。
- しかし、3:9 「**悪に対して悪を返さず、侮辱に対して侮辱を返さず、逆に祝福しなさい。**」とありますように、みことば従順に歩めば、祝福が待っているのです。聖霊の助けなしでは、生来の私ではできないことです。これはキリスト者が勝利を受ける大切な姿勢であります。そこには葛藤が起り、難しいことですが、難しくはありません。なぜなら、みことばに従順に従うだけで解決できるからです。

2. 神の約束を信頼する

- ・ペテロはこの勧めを裏づけるため、旧約聖書詩篇 34 篇 1 2 から 16 節を引用しました。(どうぞ、開いてお読みください)

1) イスラエルの賢者による讃歌

3:10 「いのちを愛し、幸せな日々を見ようと願う者は、舌に悪口を言わず、唇に欺きを語らせるな。

3:11 悪を離れて善を行い、平和を求め、それを追え。

- ・ここで大切なことが 3 点書かれています。

① 「舌に悪口を言わず、唇に欺きを語らせるない」

他の人の悪い点を見つけて、悪く言うことはむづかしくありません。しかし、舌を制することが難しいことです。また自分に悪を行う人の悪を、誇張しようとする「欺き」も注意しなければなりません。自分の過ちを取り繕くろうとする偽りも避けなければなりません。

② 「悪を離れて善を行うこと」

- ・この詩篇を詠ったダビデは、ある時、自分の命を奪おうとしていたサウル王を殺そうと思えば、殺せる場面に遭遇しました。しかし彼は「神が油注がれた王に手をかけることはいけない」と踏みとどまりました。そればかりか、ダビデは、サウロ王をしっかり警備していなかった將軍アブネルの不注意を咎めました。サウロにとって益となることを、ダビデは行いました。(1 サムエル 26 章参照)

③ 「平和を求め、それを追え。」

- ・単に平和を求めるだけではありません。それを追い求めよ、と詠いました。あくまでも平和な関係を作るよう、平和を保つようにと言うのです。何度も戦争を行い、多くの死者を出してきたダビデ王なればこそ、平和が続いて欲しいという願いを言葉にせざるを得なかったのでしょう。
- ・平和、それは国家間、個人間、家庭であれ、努力して追い求めなければ保つこと、作りだすことはできません。それは教会何の人間関係においても、そうです。
- ・しかしここで問題となるのは、自分に悪を行い、自分を苦しめる者をそのままにしていいかということです。自分はどんな態度をとるべきかです。その答えが次です。

3:12 主の目は正しい人たちの上にあり、主の耳は彼らの叫びに傾けられる。

しかし主の顔は、悪をなす者どもに敵対する。」”

- ・主は私たちが善を行うのを見ておられます。不当な苦しみにあいながら、祈る祈りに耳を傾けておられます。主の御顔は悪を行う者にも向けられています。その人が本当に懲らしめを受けるべきであるならば、主ご自身が懲らしめられます。それはパウロも語った次のみことばのようです。

12:19 愛する者たち、自分で復讐してはいけません。神の怒りにゆだねなさい。

- ・それでは、なぜ詩篇 3 4 篇が引用されたのでしょうか。

2) 詩篇 3 4 篇引用の理由

- ・少し考えてください。ペテロはガリラヤ湖で魚をとる漁師でした。決して聖書に精通した神学者でもありませんでした。しかしながら、彼はユダヤ人でしたから、幼い頃から聖書のみことばに親しみ、教えられ、育った人でした。その中で、なぜ詩篇 3 4 を引用したのでしょうか。

- ・そこには次のような理由があることを、私は教えられました。

① 詩篇 3 4 篇は「アルファベット詩」形式であること。

この「アルファベット詩」というものは、各節の頭文字が 2 2 あるヘブライ語のアルファベット順に変化する詩のことです。数多くある詩篇の歌の中で、「アルファベット詩」は特異な詩であります。

② 「アルファベット詩」には教訓的内容をもつ詩が多い。詩篇 3 4 篇

34:11 来なさい。子たちよ わたしに聞きなさい。主を恐れることを教えよう。

- ・これは詩篇 3 4 篇の詩の始まり部分ですが、これはイスラエルの知恵の教師が若者を諭すときの呼びかけであります。それは賢者が子(若者)に「幸い」のありかを教えようとする詩です。3 4 篇は、イスラエルが栄えた第 2 神殿時代の賢者が、「子らよ、私に聞け」と語りかけたものでした。ちなみに、「主を恐れること」はユダヤ人にとって律法を守ることを意味します。

③ 賢者の個人的経験が歌われた詩である。

賢者は道徳的内容を説いたわけではなく、自らが経験をしたことを、若者に対し教えたものでした。

- ・したがって、このような訳で「アルファベット詩」である詩篇34篇は、大変特徴ある詩の一つであることがわかります。他にもこの「アルファベット詩」はあります。（詩篇37篇、111篇、112篇、119篇等）
- ・私は、ペテロがこの手紙を書いた背景には、聖霊の先導があったことを疑いませんが、きっとこの特異な「アルファベット詩」は、ペテロの心に刻みこまれていたに違いありません。
- ・このように、ペテロは苦しみの中にある聖徒たちに対し、神の約束を信頼することを勧めました。そこに苦しみの中に置かれても、生きる力を受け取る秘密があるからです。

ま と め

主 題：「仕返しの渦にはまらないように」

—祝福を受け継ぐために—

- ・今日、私たちは神のみことばから大切なことを教えられました。悪の力は、私たちを悪の連鎖、「仕返しの連鎖」の中で巻き込もうとします。それに巻き込まれることは、事態を悪化させてしまいます。私たちは悪や仕返しの渦に巻き込まれるのではなく、愛、あわれみ、謙遜、平和を求めましょう。
- ・私たちは教会の中でも、家庭においても、社会においても善を行い続けましょう。私たちにはできませんが、主が私たちの心を支配してくださり、助け主である聖霊が愛の心を与えてくださるよう、祈り求めていきましょう。最後に次のみことばを、ご一緒にお読みしましょう。

3:8 最後に言います。みな、一つ思いになり、同情し合い、兄弟愛を示し、心の優しい人となり、謙虚でありなさい。

*God bless you !